

イベント情報&お知らせ

県央ブロックニュース

県央B6月末組合員数	
水戸	: 929
ひたちなか	: 508
笠間	: 100
那珂	: 101
東海	: 44
その他	: 69
合計	1,751名

生活クラブ茨城
県央ブロック
運営委員会発行
水戸センター
Tel.291-8280
2020年7月20日
No.670

6月に緊急事態宣言が解除され少しずつ日常に戻ったとはいえ、まだまだ予断を許さない状況が続いています。そのような中私たち組合員に消費材を確実に届けるため、毎日奮闘している職員・スタッフの方たちに感謝します。

「県央ブロックニュース」再開です!



現在も職員・スタッフの安全を第一に考え、感染リスク回避のため水戸センターでのイベント、会議などはすべて中止・延期されています。一方で7月に入り、組合員活動の要である県央ブロック運営委員会は、WEB形式ではありますがやっと再開することができました。また、発行元の運営委員会が開催できず休止していた「県央ブロックニュース」も再開します。

例年であればブロックニュースでは、新しく入った組合員のかた向けの「ウェルカムパーティー」、消費材生産者に直接会って消費材の良さを知ってもらう「生産者交流会」などのイベント予告、開催報告などを発信していました。それらが開催できない今だからこそみなさんに発信したいお知らせや情報、「生活クラブはこんな生協です!」などをお届けしていきますので、ぜひお手元に長く保管していただけたらと思います。

☆「県央ブロック・フードバンクチーム」による「フードバンク茨城」への協力お願いチラシ(6月8日~配布済み)の作成

☆3月30日から始まった「サステイナブルフェス」にInstagramで参加する など

できる範囲での、個人やチーム(同じ思いを持った組合員同士のあつまり)での組合員活動は継続して行われています。「いまこんなことをしています」などもブロックニュースでお伝えしていく予定です。



生活クラブ茨城
ホームページ用



アカウント:
@seikatsu_ibarak

県央ブロックの近況

STAY HOMEで外出自粛が続いたため、生活協同組合の「共同購入事業」「配送システム」が注目され、生活クラブ茨城県央ブロックでは4月~6月に56名の加入があり、6月末の組合員数は1751名になりました(生活クラブ茨城全体では4月~6月で151名の加入、組合員数は5905名)。お住まいの地域の内訳は右上に記載してあります。

裏面に続きます

欠品が多かったですね…

消費材：生活クラブのカタログで扱っている食材、
雑貨などの総称
利用：消費材を注文して購入すること



コロナウィルスの影響で、加入する方が急激に増えたことと組合員の注文数量が多くなったため、
4月、5月は特定の消費材欠品が続きましたが、今はほぼなくなってきました

4、5月中は生産者もフル稼働で注文されたものを生産してくれていましたが、計画をはるかに超えた受注のため原材料や包材不足になったものも多くあったようです。また同じような状況になれば欠品が増えるのでしょうか。それは、わたしたちが備えることでもっといい状況で消費材を受け取ることができます。

では「備え」とはなんでしょう。それは「平常時にも消費材を利用し、予約登録をする」ことです。
生産者は過去の受注数で生産する数を計画していくので、

☆欠品になっては困るものやお気に入りの消費材はできるだけいつも注文する

☆予約登録できるものは予約する（予約しておけば注文し忘れても必ず届くので安心です！）

わたしたち組合員がいつも利用することで生産者の安定した供給につながり、不測の事態への生産者側の対応も少し楽になるでしょう。

生活クラブは基準も厳しく手に入れにくい原材料もあること、豚や鶏、牛、野菜、果物などは育てるところから始まり、出荷まで日数がかかる、すぐには生産量を増やせないことを念頭に置いて消費材を利用しましょう。そして、予約登録することでわたしたち組合員は消費材を利用する側として不測の事態に備えていきましょう！

なんなの～？

「生活と自治」って

TV や新聞では知りえない
本当のコトが
この中には詰まっている。
広告がないって
そういうコト。

¥100 で**ホント**が見えるって
凄いなあ！

食や環境や身の回りの社会の出来事を
きちんと取材して記事にしています

この冊子を読んでいる人は、
かなりの通 に違いない…

生活と自治 5

生活クラブ
No.613 100YEN

5月号には、コロナ禍で品薄となった
無漂白ロールペーパーの生産
者へのインタビュー記事があります。

ダイオキシンを発生させる塩素系漂白剤
を使わずに水で洗い絞る工程を4回繰り
返し、濡れた紙を乾かす工程では鉱物油
ではなくなたね油をベースにした剥離剤を
使う。生産する人の健康を守り、肌が弱い
人でも安心して使え
る製品を作るために。
古紙の再生は資源の
循環に。古紙原料が不
足すると…!!



これは、消費材の宣伝媒体ではなく
身近な生活の情報誌ですね

※シニアの私にとってボケ防止の一冊になりそうです。(Y.K.)